

みどりの杜俳句会

芽吹く朝曾孫の写真届けきり

白石 礼子

山開き村人つどひ祈願かな

佐山ケサ子

植え残り我が畑隅の葱坊主

山崎 才子

庭垣にうす紫や鉄綿花

田村 好子

山間につつじ真っ赤や老の家

吉田 愛子

休耕地露の花みなほほけけり

高橋 ツ子

虫取なでしこ一かたまりや植木畑

鈴木 啓子

早朝の日射しにさつき開きけり

今村千鶴子

葱坊主畑の隅にすくと立つ

木本 弘子

葱坊主種のいっばいこぼれそう

梅沢喜久江

葱坊主痛そうに見えやはらかし

飯野はつ志

裏畑にひっそり残り葱坊主

西 ツル

母の日の鉢植飾る窓辺かな

関口 侑子

人気なき山の家桐の花の濃し

野口利江子

憂ひつつ一日の雨に野辺の花

小林 一樹

田水引く秩父の闇や蛙鳴く

岩崎 真人

梅雨寒や羽織る長袖ユニフォーム

大竹 裕也

梅雨入りや峡の水田の青き増す

野澤 昇

長鳴きの老鶯近き森小径

土屋 厚子

岩に蠟燭点し祝詞の山開き

山田 美子

お詫びと訂正

6月号11ページの文芸コーナーに掲載しました野口利江子さん作の俳句について、

左記のとおり訂正がありました

誤 摘み未たる葉に花びらの混ざり

正 摘み来たる葉に花びらの混ざり

お詫びして訂正いたします。



人権シリーズ

393

『忘れられないこと』

私は、県職員として長く勤務してきました。その間にはうれしかったこと、こうすればよかったと思うことなどたくさんあります。その中で今でも忘れられないことがあります。

今から35年くらい前、私がまだ20代の頃のことです。一人の女性職員から「夫が会社を辞めたので扶養親族にしたいのですが。」と相談がありました。その職員はあと何日かで産前休暇に入るところです。私は、え、何で今会社をやめるの？子供が生まれるのに・・・妻に扶養されることより就職先を探す方が先なんじゃない、と思いました。必要な書類を確認しておきます。」と伝え上司に報告しました。確かに給与条例、規則には配偶者であるだけで妻だけが扶養の対象者になるわけではありません。しかし当時の私は、夫が妻の扶養になるなんて考えもできませんでした。上司も同じような考えだったのでしよう。その職員に何と話したのかわかりませんが、私の不在時に職員組合に加入している職員の友人が、憤慨して上司に詰め寄ったのです。すごい剣幕だったといえます。結局旦那さんが、次の就職先を見つけ扶養認定はなかったのですが・・・

私は、自分が詰め寄られていると思いました。自分の考え方が絶対ではなくいろいろな考え方があるということに身染みて痛感しました。今は男女に対する意識も改善されてきましたが、無意識の中にまだまだ残っているのではないのでしょうか。

東秩父村教育委員会委員 大澤 京子

東秩父村教育委員会開催のお知らせ

日時 7月21日(木) 午後1時30分～
場所 役場2階新会議室
問合せ 教育委員会事務局 ☎82-1230

